

加熱式たばこに関する特集について

柳沢幸雄*

東京大学名誉教授

Introduction to special issue on heated tobacco products

Yukio YANAGISAWA*

Professor Emeritus, The University of Tokyo

Key words: 加熱式たばこ(Heated Tobacco Products), リスク(Risk), ベネフィット(Benefit),
社会的受容(Social Acceptance)

技術の進歩と社会の変容に従って、新しい商品とそれを表す言葉が生まれる。スマホはその典型であり、我々の日常の中でスマホという言葉、スマホそのものに触れる事のない1日は考える事ができないのが、現在のわれわれの生活である。

10年前には存在しなかった言葉の一つに、加熱式たばこという言葉がある。紙巻きたばこや葉巻の様にタバコ葉を燃焼させて発生したタバコ煙を吸引するものではなく、タバコ葉を加熱して、発生する蒸気を吸引する嗜好品である。

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行に襲われている2020年、2021年の世界では人々の行動にいろいろな形の制約が課せられている。人々の接触機会を制限することによって、ウイルスの伝播を防止することを基本にした制約である。このような非日常的な制約を受けて、実感しているのが、聖書にも書かれている言葉ではないだろうか。

「人はパンのみにて生きるものに非ず(新約聖書 - マタイ伝第4章)」。動物として生命を維持するために食料を確保することだけが我々人間の存在ではない。パン以外の物で生活に潤いを齎すものを人類は必要としている。嗜好品も生活に潤いを齎すものであり、いろいろな種類の嗜好品を我々は摂取している。

嗜好品は生命の維持に必須の物品ではないので、それがもたらす潤い、つまりベネフィットと健康へのリスクのバランスを勘案して社会的許容度が決まる。加熱式たばこは嗜好品として、我々の社会の新顔である。従ってそのリスクとベネフィットは未解明の部分が多い。本特集では、現時点までに明らかになっている知見を纏め、加熱式たばこに対する社会的評価の定着に必要な研究課題を提示することを目的にしている。

*Corresponding author (責任著者) E-mail: yanagisawa.yukio@gmail.com